Rotary 小樽南 ロータリークラブ会報
国際ロータリー 第2510地区 日本
The Rotary Club of Otaru South. District No.2510
Club Homepage URL http://rid2510.org/otarusouth/
●例会場/ニュー三幸 ●例会日/毎週金曜日12時30分 ●事務局/〒047-0032 小樽市稲穂1-3-6 ☎0134-33-3500

●2014-2015年度RIテーマ
LIGHT up ROTARY
ゲイリーC.K.ホァンRI会長

●第2510地区重点目標
RIテーマ「ロータリーに輝きを」を推進しよう

55年の歴史の蓄積の上に立って ロータリーにさらなる輝きを

●再来週5月8日㊎のプログラム
◎「北海道能開大の地域貢献」
スピーカー：小林 健氏
（北海道職業能力開発大学校建築家准教授）

●来週5月1日㊎のプログラム
◎休会となります

●今週4月24日㊎のプログラム
◎ドラマ「マッサン」が遺してくれたもの
余市町中央公民館 館長 浅野 敏昭氏

40
通巻 第2697号
2015年4月24日㊎発行
1960年創立
昭和35年2月5日

●第39回例会報告 4月17日㊎「平成26年度補正・27年度国家予算の小樽経済への波及効果」岡田 一則氏（北海道財務局小樽出張所所長）

■ロータリーソング■ 「四つのテスト」

■ゲスト・ビジターの紹介■
岡田 一則 様（北海道財務局小樽出張所所長）
重松 有 様（北海道財務局小樽出張所総務係長）
山田 雅敏 様（小樽RC）

■会長報告■ 加藤会長
・14-15年度も残り少なくなってまいりましたが、気弛めることなく邁進して行く所存ですので今後ともよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

■幹事報告■ 工藤幹事
・5月1日の休会・15日のお花見移動例会等の詳細につきましては来週ご報告させていただきます。
・6月13日開催の倶知安RC創立50周年記念式典のご案内が届いておりますが三役中心に対処したいと考えておりますが、出席希望の会員がおられましたら幹事までお知らせ下さい。
・第25回日本ロータリー親睦ゴルフ北海道大会が6月22日(月)小樽カントリー倶楽部で開催されます参加登録費16,000円ですが6,000円を負担いたします。

■委員会・同好会報告■
◎野球同好会 紺谷会員
・来る4月29日朝里川公園において今年初の練習をいたします野球同好会の皆様奮ってご参加下さい。また今年から野球同好会に入会希望の会員がおられましたら是非ご加入下さい大歓迎いたします。特に、毎回応援に駆け付けてくれます斎藤会員・東会員よろしくお願いいたします。

国際ロータリー第2510地区
2015-16年度

地区研修・協議会報告

廣部会長エレクト

4月11(土)・12(日)の2日間、岩見沢で開催しました地区研修・協議会に参加して参りました。1日目の懇親会には、当クラブからは私を含めた3役と斎田次期ガバナー補佐が出席。加えて、2日目には5大奉仕と広報の各委員長さんがそれぞれ分科会に出席され長時間にわたる討議大変お疲れ様でした。2015-16年度国際ロータリー会長は、スリランカのラビンドランさん詳しくは「ロータリーの友」3月号に写真も添えて掲載されております。大柄(長身1m85)で、包容力を感じさせる風貌の方です。

テーマは「世界へのプレゼントになろう」“Be a gift to the world” この「Be a gift」がなぜ、「プレゼントになろう」という日本語になるのか、というようなお話しも嵯峨ガバナーエレクトからありました・・・。訳としては疑問符？が付くということでした。

◆地区目標としては4つ

Ⅰ.会員増強と維持率向上の推進。
特に来期は維持率向上、つまりは退会防止に力を入れる。

Ⅱ.オンラインツールの利活用の推進。
現在、ロータリーの各種手続・登録は郵送で行われていますが、これが全て「ロータリークラブ：セントラル」とか「My Rotary」という「ウェブサイト」を利用した形に切り替わります。

Ⅲ.人道的奉仕活動の継続と推進。
ポリオ撲滅について今期は第2510地区では、「ロータリーの公共イメージの向上」を目指し、ポリオに特化したロータリーディーをもうけましたが来期の嵯峨年度では、地区として統一した形では行わないということになりました。この当たりが、今期と来期の大きな違いかなあと思います。

Ⅳ.ロータリー財団への理解と協力支援の継続。

◆「地区重点課題」の中で注目すべき点は

◎新会員のフォロー支援
具体的には、「地区大会」での新会員のみのセミナー。
来年には、新会員対象の「宿泊研修」の場を設ける。

2日間の地区研修・協議会その中で、興味深く考えさせられましたのは、地区レベルでのロータリーの1年毎に入れ替わる単年度制と、長期計画というような継続性のせめぎ合いをこれを間の当たりに出たというようなところです。以上ご報告いたします。

平成26年度補正・27年度国家予算の小樽経済への波及効果

岡田一則氏（北海道財務局小樽出張所所長）

まずは、創立55周年をお迎えになった、歴史ある小樽南ロータリークラブの例会に昨年に引き続きお招きいただき、光栄です。よろしくお願いいたします。

さて、政府は、デフレ脱却・経済再生の本格化に向けた流れの中で、26年度補正予算を本年２月３日に成立させました。「地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策」として、①生活者・事業者への支援、②地方の活性化、③災害・危機等への対応が柱となっています。中でも、地域の消費喚起及び生活者・事業者を支援するための交付金（2,500億円）と地方版総合戦略の早期かつ有効な策定を支援するための交付金（1,700）が目玉です。

小樽市では、消費喚起・生活支援として、20％のプレミアム商品券（１セット１万円を10万セット）を発行するほか、子育て世帯への支援を、総合戦略関連では、教育機材の整備、物流促進のための調査などに交付金を充てることとしており、特に、プレミアム商品券は経済活動に一定の効果を発揮することは明らかで、その流れを如何に継承するかが肝心となります。

なお、今回の補正予算は、規模的には３兆円余りとなっており、財源は税収、税外収入、前年度剰余金等で確保し、新規国債発行を伴わないのが特徴で、歳入の公債金をマイナス補正しています。

次に27年度予算ですが、今年は暫定予算が組まれ４月９日に成立となりました。総額96兆3,420億円、前年度比4,600億円ほどの増です。ポイントは、経済再生と財政再建の両立。特に、地方創生の観点から、魅力あふれる「まちづくり、ひとづくり、しごとづくり」を推進（26年度補正予算を含めると約１兆円規模）し、「女性が輝く社会」の実現、「子育て支援」充実、介護制度の見直しとともに、国土強靭化の推進、災害からの復興・再生に軸足を置いています。

なお、財政健全化の観点から、2015年度PB赤字の2010年度とのGDP比半減、国債発行額の大幅な減額という目標を堅持しているところです。

27年度予算は、消費税率８％への引上げの平年度化による増収に加え、所得税、法人税の伸びを含め、26年度に比べ４兆5,000億円余りの税収増となりました。しかしながら、その要因は、株式の配当や譲渡益による配当所得が大きく、給与所得による部分は限られているところです。また、引き続き金利が低い水準であるため、国債費の伸びがわずかであることも予算編成に際しては追い風となっています。当初予算規模では、過去最大でありますが、PB収支は前年度比マイナス4.6兆円、公債依存度は38.3％で平成21年度以来の30％台となりました。

政府は、消費税率引き上げに伴う増収分はすべて社会保障の充実・安定化に向けるとしており、27年度としての消費税増収分は8.2兆円ですが、基礎年金に３兆円、社会保障の充実に1.35兆円、消費税率引き上げによる経費増があって、残り3.4兆円が公債発行額の減額に寄与しているところです。ちなみに、今年10月から10％へ引き上げられたとすると、全体で1.5兆円、充実のためにはそのうち5,000億円ほど上積みがあって、1.8兆円という予定でありました。したがって、27年４月から当初予定通りに実施される充実策と、一部実施するもの、29年４月まで持ち越しとなるものがありますが、子供子育ては優先し予定通り実施することとしています。

そこで、国の予算において、何が小樽市経済に波及効果を及ぼすかは明確に示せるものではないことを御理解いただきたいわけが、地方創生関連の交付金のほか、27年度税制改正における、地方に東京圏等から企業の本社機能等を移転・拡充する取組への支援、ふるさと納税の拡充、外国人旅行者向けの免税手続きの改正、子や孫への資産の早期移転に係る非課税措置の創設なども、人口減少及び地方の人口流出等の課題克服の観点から期待できるものと考えます。

そのような状況の中、小樽市内の状況を見ますと、個人消費は消費税率引上げ前の駆け込み需要から比較的早く持ち直し、人口減が著しい環境下、足下では前年比横ばいで推移しています。やはり、外国人観光客の消費が増加しており、下支えとなっている、これをいかに継続・拡大するか、外国人観光客はまだまだ増えると予測されるので、今後の取組が肝心だと思います。観光客数は順調に増えていますが、国内客はニッカウイスキー余市工場が多く寄与していると思われるので、一過性にせず、国内客の獲得、中でも札幌圏からの回帰をどう図るかも課題ではないでしょうか。雇用については、数字上は良いですが、実質は求人と求職にミスマッチがあって、人気のある業種には、応募が多数。特に女性の正社員は厳しい状況で、札幌まで視野に入れないと無理との声を聞きます。また、賃金については、当所で確認したところではベースアップはほんの一握りで、それも人材確保のための若手世代のみで、多くが定期昇給で対応、もしくは、成果主義でボーナス、一時金でとのことでした。

【参考資料】
- ▶余市・仁木地区のワインバレー構想
- ▶マイナンバー制度
- ▶北海道財務局と小樽商科大学との包括連携協定

小樽にお世話になって２年を過ぎました。道外の人間からすると、そのたたずまい、様々な資源は非常に魅力的です。これをいかに活用し、発展していくか。会員皆様の今後の取組に期待します。

■出席委員会■

・平成27年４月17日

会員総数　76名　本日の欠席者　16名

荒木、荒内、浅村、石上、角野、斎田、佐藤(公)、佐藤(友)、鈴木、永原、本吉、盛、林、山田(正)、山村、福井

・平成27年４月３日

会員総数　76名　出席摘要免除者　16名

病欠者数　０名　ホーム欠席者数　15名

メーキャップ　８名　純欠席者数　７名

確定出席率　90.0％

■メーキャップ■

4/３　永原（地区研修・協議会）

4/17　斎田、佐藤（公）（地区）